



JAPAN ACCOUNTING ASSOCIATION

日本会計研究学会第78回大会 研究報告要旨集

2019年 9月6日(金)～9日(月)

統一論題テーマ

「会計学研究の将来を考える」



神戸学院大学



JAPAN ACCOUNTING ASSOCIATION

日本会計研究学会第78回大会 研究報告要旨集

2019年 9月6日(金)～9日(月)

統一論題テーマ

「会計学研究の将来を考える」



神戸学院大学

日本会計研究学会第78回大会 開催にあたって

第78回大会準備委員会
委員長 安井 一浩

日本会計研究学会会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたび神戸国際会議場、神戸ポートピアホテルおよび神戸学院大学ポートアイランドキャンパスにおきまして日本会計研究学会第78回大会を開催させていただくことになりました。本学では2007年に関西部会を開催させていただいたことはありましたが、このたび大会開催校に選ばれましたことは、誠に光栄であると存じております。

近年の情報技術をはじめとする多くの分野における技術の進歩は、グローバル化とそれに伴う社会環境の変化をもたらし、会計学の研究対象である会計の構造、性質その他の面に多大な影響を与えていることは疑いようがありません。一方で会計学の研究方法自体も情報技術の進歩、コンピュータの高性能化と普及などにより、大きく変化していることも見逃せない点であります。このような変化の激しい時代であるという認識のもとに、会計学の研究がこれまで通りの対象および方法でよいのか、そしてこれからどうすればよいのかという問題意識から、統一論題テーマを「会計学研究の将来を考える」とさせて頂きました。また座長は現在、第一線でご活躍をされている先生方をお願いいたしました。報告者の先生方、大会参加者の方々とともに、将来へ向けた活発な議論がなされることを願っております。

特別講演は鷺地隆継氏にお願いすることといたしました。鷺地氏は国際会計基準審議会理事として活躍されてこられました。これまでのご経験から培われたご見識のもとに、有意義なお話をお聞かせ頂けるものと思います。

国際セッションは、ここ数年の大会と同様、日本会計研究学会国際交流委員の先生方のご協力のもとに、韓国会計学会、台湾会計学会および日本会計研究学会の会員による英語報告を予定しております。会計研究者の方々の国際交流の一助となれば幸いです。

また ASBJ セッションとして企業会計基準委員会から小賀坂敦委員長、川西安喜副委員長をお招きし、近年の会計基準の動向についてお話いただく予定です。このほかにも例年通り自由論題報告、特別委員会報告、スタディ・グループ報告を予定しております。特に自由論題報告は、各会場において活発な議論が展開されることを祈っております。

皆様の多数のご参加をお待ち申し上げます。

最後に、本大会の開催にあたり多大なご支援とご協力をたまわりました日本会計研究学会の先輩、役員の先生方、会場および大学関係者の方々、その他の関係者の方々に篤く御礼申し上げます。

目 次

大会全体スケジュール	2
理事会・評議員会等スケジュール	5
大会詳細スケジュール	
大会第1日目 9月7日(土)	6
大会第2日目 9月8日(日)	7
大会第3日目 9月9日(月)	16
特別委員会報告	23
スタディ・グループ報告	29
特別講演	35
国際セッション	37
自由論題報告Ⅰ・院生セッションⅠ	45
自由論題報告Ⅱ・院生セッションⅡ	93
統一論題報告	135
ASBJ セッション	173
会場案内図	175

大会全体スケジュール

第1日目 9月7日(土)

会場：神戸国際会議場・神戸ポートピアホテル

11:00～17:00	参加者受付	(神戸国際会議場 1階 メインホール前)
18:00～19:00	参加者受付(懇親会受付のみ)	(神戸ポートピアホテル本館地下 1階)
12:00	新入会員発表	(神戸国際会議場 1階 メインホール前)
13:00～14:30	会員総会	(神戸国際会議場 1階 メインホール)
14:50～15:30	特別委員会報告 鈴木 一水 委員長	(神戸国際会議場 1階 メインホール)
15:40～16:20	特別委員会報告 三矢 裕 委員長	(神戸国際会議場 1階 メインホール)
16:40～17:50	特別講演 鷺地 隆継(前 国際会計基準審議会理事)	(神戸国際会議場 1階 メインホール)
18:30～20:30	懇親会	(神戸ポートピアホテル 偕楽の間)

※司会者・報告者等の氏名は敬称を略しております。

第2日目 9月8日(日)

会場：神戸学院大学ポートアイランドキャンパス

9:00～16:00	参加者受付	(D号館1階 コミュニケーションモール)
9:00～15:30	会員控え室	(D号館2階 D217・D218)
9:30～14:05	国際セッション	(D号館2階 D202)
9:30～11:50	自由論題報告Ⅰ	(D号館2階)
	院生セッションⅠ	(D号館2階)
【昼食】		(D号館1階 フードコートシーガル、2階 D217・D218)
13:00～13:40	スタディ・グループ報告 林 隆敏 主査	(D号館1階 D101)
13:45～14:25	スタディ・グループ報告 佐々木 隆志 主査	(D号館1階 D101)
14:45～17:05	統一論題報告	
	第1会場 「財務会計研究の将来を考える」	(D号館1階 D101)
	第2会場 「監査研究の継承と変化」	(D号館1階 D102)
	第3会場 「管理会計研究の多様性」	(D号館2階 D201)
	第4会場 「パブリックセクターの会計学研究の将来を考える ーガバナンスとアカウンタビリティ」	(D号館2階 D202)

第3日目 9月9日(月)

会場：神戸学院大学ポートアイランドキャンパス

9:00～16:00	参加者受付	(D号館1階 コミュニケーションモール)
------------	-------	----------------------

9:00～15:30	会員控え室	(D号館2階 D217・D218)
------------	-------	-------------------

9:30～11:50	自由論題報告Ⅱ	(D号館 2階)
	院生セッションⅡ	(D号館 2階)

【昼 食】	(D号館1階 トラットリア フェリーチェ、2階 D217・D218)
-------	------------------------------------

13:00～14:45	統一論題討論	
	第1会場 「財務会計研究の将来を考える」	(D号館1階 D101)
	第2会場 「監査研究の継承と変化」	(D号館1階 D102)
	第3会場 「管理会計研究の多様性」	(D号館2階 D201)
	第4会場 「パブリックセクターの会計学研究の将来を考える ーガバナンスとアカウンタビリティ」	(D号館2階 D202)

15:00～16:30	ASBJ セッション	(D号館1階 D101)
-------------	------------	--------------

理事会・評議員会スケジュール

9月6日(金)

会場：神戸学院大学ポートアイランドキャンパス

12:00～13:00	入会資格審査委員会	(D号館2階 D218)
12:00～15:00	学会賞および太田・黒澤賞審査委員会	(D号館2階 D220)
15:00～17:30	理 事 会	(D号館2階 D217)

9月7日(土)

会場：神戸国際会議場

9:30～10:30	評議員受付	(5階 ラウンジ)
10:00～12:30	評議員会	(5階 501会議室)
	評議員会昼食会場	(5階 501会議室)

大会詳細スケジュール

第1日目 9月7日(土)

会場：神戸国際会議場・神戸ポートピアホテル

参加者受付 11:00～17:00 (神戸国際会議場1階 メインホール前)

参加者受付(懇親会受付のみ) 18:00～19:00 (神戸ポートピアホテル 本館地下1階)

新入会員発表 12:00 (神戸国際会議場1階 メインホール前)

会員総会 13:00～14:30 (神戸国際会議場1階 メインホール)

特別委員会報告 14:50～16:20 (神戸国際会議場1階 メインホール)

特別委員会報告1 14:50～15:30

特別委員会報告2 15:40～16:20 (報告時間 各30分 質疑応答 各10分)

特別委員会報告1
司会者：齋藤 真哉(横浜国立大学)
委員長：鈴木 一水(神戸大学)

「税制が企業会計その他の企業行動に及ぼす影響に関する研究」(中間報告)

特別委員会報告2
司会者：岡田 幸彦(筑波大学)
委員長：三矢 裕(神戸大学)

「知の活用・探索と管理会計に関する研究」(最終報告)

特別講演 16:40～17:50 (神戸国際会議場1階 メインホール)

特別講演

ご挨拶

桜井 久勝(神戸大学名誉教授)

「IFRSと日本 ―国際的な基準とどう向き合っていくか―」

鶯地 隆継(前 国際会計基準審議会理事)

懇親会 18:30～20:30
(神戸ポートピアホテル 偕楽の間)

第2日目 9月8日(日)

会場：神戸学院大学ポートアイランドキャンパス

参加者受付 9:00～16:00

(D号館 コミュニケーションモール)

会員控え室 9:00～15:30

(D号館2階 D217・D218)

国際セッション

(D号館2階 D202)

報告(1) 9:30～10:00

報告(2) 10:05～10:35

(休憩 10分)

報告(3) 10:45～11:15

報告(4) 11:20～11:50

(休憩 70分)

報告(5) 13:00～13:30

報告(6) 13:35～14:05

(報告時間 各20分 質疑応答 各10分)

司会者：太田 康広(慶應義塾大学)

(1) Organizational Identity and Performance in Compensation Contract : A Mathematical Model and Evidence.

若林 利明(上智大学)

黒木 淳(横浜市立大学)

討論者：Seon Mi Kim (Chonnam National University)

(2) Unintended Consequences of a Creative Corporate Culture : An Empirical Investigation.

In Gyun Baek (University of Wisconsin-Madison)

Sewon Kwon (Sejong University)

Ella Mae Matsumura (University of Wisconsin-Madison)

討論者：石田惣平(埼玉大学)

司会者：阪 智香(関西学院大学)

(3) Outside Director's Equity Incentive and Strategic Alliance Decisions.

Vincent Y.S. Chen (National Chengchi University)

Yu-Fang Huang (National Chengchi University)

Jia-Wen Liang (National Chengchi University)

討論者：Sewon Kwon (Sejong University)

(4) The Subcontract Fairness and Cost of Equity.

Sang Hoon Shin (LG CNS audit team)

Seon Mi Kim (Chonnam National University)

Seung Weon Yoo (Korea University)

討論者：Vincent Y.S. Chen (National Chengchi University)

司会者：若林 公美（甲南大学）

(5) Attractive from a Distance? Evidence from Acquisition of Multi-Location Targets.

顧 俊堅（筑波大学）

討論者：Han-Chung Chen（National Taipei University）

(6) The Information Quality of Non-GAAP Disclosures.

Han-Chung Chen（National Taipei University）

Yen-Jung Lee（National Taiwan University）

Sheng-Yi Lo（Feng Chia University）

討論者：北川教央（神戸大学）

自由論題報告 I

院生セッション I

第1会場～第10会場

院生セッション第1会場～第3会場

報告(1) 9:30～10:00

報告(2) 10:05～10:35

（休憩 10分）

報告(3) 10:45～11:15

報告(4) 11:20～11:50

（報告時間 各20分 質疑応答 各10分）

第1会場（D号館2階 D203）

司会者：音川 和久（神戸大学）

(1) Corporate Social Responsibility と会社利益予想の四半期変化

竹原 均（早稲田大学）

(2) アナリストの包括利益情報の有用性・活用手順に関する実証分析

根建 晶寛（福島大学）

司会者：大沼 宏（中央大学）

(3) 経営者の年齢が研究開発投資に与える影響

—Career Horizon 問題に注目して—

太田 裕貴（静岡産業大学）

(4) 繰延税金資産の回収可能性判断と会計的・実体的利益調整との関係

積 惟美（亜細亜大学）

第2会場（D号館2階 D204）

司会者：笹倉 淳史（関西大学）

(1) イギリス産業革命期における利益計算の考察 —鉱山業の記録をもとに—

野口 翔平（日本大学）

(2) 収益用語論 —「収益」という用語は、いつから、どのように使われてきたか

川島 健司（法政大学）

司会者：浅野 信博（大阪市立大学）

(3) 沈黙期間の設定と情報の非対称性

森脇 敏雄（北九州市立大学）

(4) 私的情報と公的情報に基づく情報トレーダーの最適投資戦略について

小谷 学（熊本学園大学）

第3会場（D号館2階 D205）

司会者：木村 史彦（東北大学）

(1) メインバンク関係と融資先企業の配当政策

海老原 崇（武蔵大学）

梅澤 俊浩（龍谷大学）

(2) 複数の株主提案議案が提出された企業の特徴

久多里 桐子（北九州市立大学）

司会者：星野 一郎（広島大学）

(3) 日本の生命保険会社における Embedded Value 開示企業の特徴

塚原 慎（帝京大学）

西山 一弘（帝京大学）

中村 亮介（筑波大学）

(4) 収益性指標、生産性指標、プロフォーマ利益指標の計算構造

矢部 孝太郎（大阪商業大学）

梶原 太一（高知県立大学）

第4会場（D号館2階 D206）

司会者：大野 智弘（創価女子短期大学）

(1) 子会社株式の売買と自己株式

木村 太一（多摩大学）

(2) 段階取得と経済的単一体説

山下 奨（跡見学園女子大学）

司会者：大鹿 智基（早稲田大学）

(3) 「コーポレート・ガバナンスの状況」の分析
ーテキストマイニングを利用して

矢澤 憲一（青山学院大学）

(4) 生物多様性保全のための会計研究 ー文献レビューを中心にー

岡 照二（関西大学）

第5会場(D号館2階 D207)

司会者：川村 義則(早稲田大学)

(1) 持分法適用に関する実務面からの一考察

安藤 鋭也(三井物産株式会社)

(2) 大規模自然災害に対処する為の資本水準確保も含めた 保険共済事業発展に関する研究

橋上 徹(県立広島大学)

司会者：徳前 元信(福井県立大学)

(3) 労働サービス取得・消費前のストック・オプション

山下 克之(追手門学院大学)

(4) 会計基準設定過程における適用後レビューの位置づけ —「評価の政治化」の視点から—

森 洵太(愛知淑徳大学)

第6会場(D号館2階 D208)

司会者：戸田 龍介(神奈川大学)

(2) 小規模企業における行列簿記の実現可能性

——会計ソフト会社へのアンケート等を中心として——

磯本 光広(長崎ウエスレヤン大学)

司会者：成川 正晃(東北工業大学)

(3) IASB「2018年概念フレームワーク」と引当金会計

赤塚 尚之(滋賀大学)

(4) 新しい収益認識に関する会計基準の浸透度

—収益認識に関する会計基準の改訂過程におけるアンケート調査からの分析—

石田 万由里(玉川大学)

第7会場(D号館2階 D209)

司会者：高田 知実(神戸大学)

(2) The Effect of the Big 4 to Big 3 Audit Market Transition on Initial Year Audit Fee Pricing in Japan

Frendy(名古屋商科大学)

司会者：薄井 彰(早稲田大学)

(3) 『日本会計士会々報』にみる会計士業務

—日本会計士会創立期から計理士法成立期を中心に—

山下 修平(秀明大学)

(4) GHQ「財務諸表作成に関する指示書」の再評価

山田 ひとみ(聖学院大学)

第8会場 (D 号館2階 D210)

司会者：浜田 和樹 (岡山商科大学)

(1) わが国マネジメント・コントロール研究の展開

横田 絵理 (慶應義塾大学)

乙政 佐吉 (小樽商科大学)

坂口 順也 (名古屋大学)

河合 隆治 (同志社大学)

大西 靖 (関西大学)

妹尾 剛好 (中央大学)

(2) サステナビリティ・マネジメント・コントロール・システムの変化が 企業の CSR パフォーマンスに与える影響

金 宰弘 (関東学園大学)

國部 克彦 (神戸大学)

司会者：安酸 建二 (近畿大学)

(3) 日次損益管理による工事实行予算管理実践に関する研究

菅本 栄造 (青山学院大学)

(4) 個別受注契約における目標原価の設定

木村 太一 (慶應義塾大学)

森光 高大 (西南学院大学)

第9会場 (D 号館2階 D211)

司会者：日野 修造 (中村学園大学)

(2) 公会計財務諸表情報の地方債市場に対する意思決定有用性 — 米国各州のデータを用いた比較分析 —

原口 健太郎 (西南学院大学)

司会者：中川 優 (同志社大学)

(3) 日本の地方自治体のマネジメント・コントロール経営の黎明 — 「経営予算」の萌芽 —

佐藤 幹 (福山平成大学)

(4) 地方政府における業績指標の測定可能性と情報効果： 予算編成過程情報を用いた実証分析

黒木 淳 (横浜市立大学)

(3) 法人税法における益金の認識と測定
—無償取引を中心として—

金子 善行(帝京大学)

(4) わが国法人税法における収益認識
—権利の確定と履行義務の充足の異同とは—

宮崎 裕士(大阪経済大学)

院生セッション第1会場(D号館2階 D214)

(1) Frequent financial reporting and external finance

藤谷 涼佑(一橋大学大学院)

(2) 財務諸表におけるポリ塩化ビフェニル(PCB)処分の表示に関する一考察

廣瀬 哲雄(専修大学大学院)

(3) 事前のリスク認識とリスク顕在化後の企業業績との関係性
—自然災害リスクに焦点を当てて—

吉田 政之(神戸大学大学院)

(4) 株主提案が日本企業の利益調整行動に及ぼす影響

岩田 聖徳(一橋大学大学院)

院生セッション第2会場(D号館2階 D215)

(2) 会計情報システムの有効性を分ける諸要因の探索的分析
—サービス産業への質問票調査を通じて—

山矢 和輝(筑波大学大学院)

岡田 幸彦(筑波大学)

(3) 全社的な内部統制監査についての一考察 ～日米比較を通じて～

飯田 亜子(同志社大学大学院)

(4) An Experimental Study on Potential Whistleblowing Intentions : A Dilemma of
Fairness and Risk of Reporting

澤田 雄介(同志社大学大学院)

廣瀬 喜貴(大阪市立大学)

田口 聡志(同志社大学)

司会者：丸田 起大 (九州大学)

(1) 相互学習のあるチームにおける目標設定とラチェット効果

小山 真実 (神戸大学大学院)

(2) 活用される原価情報の品質

— 工場内アンケート調査に基づく考察 —

岩澤 佳太 (慶應義塾大学大学院)

司会者：櫻井 通晴 (専修大学名誉教授)

(3) 職性給制度の構築に向けた活動原価の期待的役割

— 新たな測定・評価の尺度による活動原価概念の提起 —

小川 慶 (神戸学院大学大学院)

(4) 品質管理と企業の業績に関するレビュー

飯塚 隼光 (一橋大学大学院)

スタディ・グループ報告 13:00～14:25

(D 号館 1階 D101)

スタディ・グループ報告 1 13:00～13:40

スタディ・グループ報告 2 13:45～14:25

(報告時間 各 30分 質疑応答 各 10分)

スタディ・グループ報告 1

司会者：鈴木 一水 (神戸大学)

主 査：林 隆敏 (関西学院大学)

「財務諸表監査の基礎概念に関する研究」(中間報告)

スタディ・グループ報告 2

司会者：梅原 秀継 (明治大学)

主 査：佐々木 隆志 (一橋大学)

「顧客との契約から生ずる収益の認識に関する会計諸問題の研究」(最終報告)

統一論題テーマ

『会計学研究の将来を考える』

座長解題

第1報告

第2報告

第3報告

第4報告

第1会場(D号館1階D101)

「財務会計研究の将来を考える」

座長：大石 桂一(九州大学)

「解題：財務会計研究の将来を考える」

報告：池田 幸典(愛知大学)

「理論研究の深化と拡張」

清水 泰洋(神戸大学)

「対話する会計史研究」

中野 誠(一橋大学)

「マクロとミクロの財務会計」

鈴木 智英(早稲田大学)

「制度設計のナッジとしてのアカウンティング」

第2会場(D号館1階D102)

「監査研究の継承と変化」

座長：町田 祥弘(青山学院大学)

「解題：監査研究の継承と変化」

報告：千代田 邦夫(立命館アジア太平洋大学(APU) 客員教授)

「アメリカ公認会計士監査制度研究50年」

鳥羽 至英(国際教養大学)

「財務諸表監査に、監査学術上、どのように接近したらよいのか
—監査実務に埋没する監査研究と監査研究を阻む制約—」

山浦 久司(明治大学名誉教授)

「監査リスク・モデルの研究：実証主義と反証主義の狭間での葛藤
～監査基準設定に関与した者の悩み～」

内藤 文雄(甲南大学)

「監査研究と価値判断—外延と内包—」

「管理会計研究の多様性」

座長：伊藤 嘉博(早稲田大学)

「管理会計研究の多様性
～研究対象およびアプローチの拡大と深化の先に」

報告：清水 孝(早稲田大学)

「サーベイ研究の意義と限界 ―予算管理の調査を用いて」

挽 文子(一橋大学)

「管理会計研究の将来 ―フィールドスタディの軌跡を踏まえて」

横田 絵里(慶應義塾大学)

「マネジメント・コントロール研究の模索
―フィールド・リサーチから探る実務への貢献」

國部 克彦(神戸大学)

「管理会計の脱構築 ―現代哲学からのアプローチ」

「パブリックセクターの会計学研究の将来を考える
―ガバナンスとアカウンタビリティ」

座長：松尾 貴巳(神戸大学)

「パブリックセクターの会計学研究の将来を考える
―ガバナンスとアカウンタビリティ」

報告：山本 清(鎌倉女子大学)

「ガバナンス会計の理論と実践に関する研究」

小林 麻理

「公共経営の変容と会計学の機能」

吉見 宏(北海道大学)

「パブリックセクターの監査の行方」

目時 壮浩(武蔵大学)

「行政管理会計研究の行方：システムティックレビューに基づく分析」

第3日目 9月9日(月)

会場：神戸学院大学ポートアイランドキャンパス

参加者受付 9:00～16:00

(D号館1階 コミュニケーションモール)

会員控え室 9:00～15:30

(D号館2階 D217・D218)

自由論題報告Ⅱ 院生セッションⅡ

第1会場～第9会場
院生セッション第1会場～第3会場

報告(1) 9:30～10:00

報告(2) 10:05～10:35

(休憩 10分)

報告(3) 10:45～11:15

報告(4) 11:20～11:50

(報告時間 各20分間 質疑応答 各10分)

第1会場(D号館2階 D203)

司会者：坂上 学(法政大学)

(1) 経営者の在任期間と業績予想の正確度

石田 惣平(埼玉大学)

(2) 会計と平等 ―付加価値分配率の探索的データ解析―

阪 智香(関西学院大学)

國部 克彦(神戸大学)

地道 正行(関西学院大学)

司会者：加賀谷 哲之(一橋大学)

(3) 投資者は負債情報をどのように捉えているのか

増村 紀子(兵庫県立大学)

(4) ABO に関する価値関連性の検証 ―PBO と比較して―

藤田 直樹(関西学院大学)

第2会場(D号館2階 D204)

司会者：内藤 高雄(杏林大学)

(1) 買収後におけるのれん減損の要因

島崎 杉雄(国土舘大学)

(2) IFRS の導入会社ののれんの減損損失の実態分析とその課題

大倉 雄次郎(関西大学名誉教授)

司会者：志賀 理(同志社大学)

(3) わが国の英和辞典の進展と「authoritative support」の翻訳問題

竹森 一正(中部大学名誉教授)

(4) 持株会社の情報開示に関する考察

— 今日的な企業グループに適合的な情報開示の追及 —

長田 芙悠子 (中央学院大学)

第3会場 (D 号館2階 D205)

司会者：渡辺 剛 (福岡大学)

(2) トピックモデルを用いた MD&A 情報の分析

伊藤 健顕 (甲南大学)

司会者：若林 公美 (甲南大学)

(3) 日本企業に対する Khan and Watts (2009) による C スコア適用の妥当性について

山下 知晃 (福井県立大学)

藤山 敬史 (神戸大学)

(4) 経営者報酬における IFRS 適用の影響：利益に対する報酬の感度に注目して

井上 謙仁 (近畿大学)

第4会場 (D 号館2階 D206)

司会者：池田 公司 (甲南大学)

(1) 統合報告と利益調整

調 勇二 (東洋大学)

中野 誠 (一橋大学)

(2) 統合報告書の「質」は会計情報の価値関連性を高めたか？

譚 鵬 (中部大学)

榊原 茂樹 (神戸大学名誉教授)

司会者：照屋 行雄 (神奈川大学)

(3) CSR 情報開示の市場流動性への影響：

CSR ディスクロージャーの情報マスキング効果

野田 昭宏 (滋賀大学)

(4) MCS と EMCS の相互関係にコーポレートガバナンスが及ぼす影響

呉 綺 (京都先端科学大学)

梶原 武久 (神戸大学)

國部 克彦 (神戸大学)

第5会場(D号館2階 D207)

司会者：柴 健次(関西大学)

(2) 学校法人会計基準における基本金組入れと減価償却費の二重計上問題の検討

林 兵磨(大阪産業大学)

司会者：古庄 修(日本大学)

(3) エンティティ観に立脚したアンソニー会計概念を取り入れた

営利・非営利統一の会計制度構築可能性の検討

―利子コストの会計処理を中心として―

日野 修造(中村学園大学)

(4) 社会福祉法人における統合報告フレームワークの検討

平田 沙織(長岡大学)

第6会場(D号館2階 D208)

司会者：松本 祥尚(関西大学)

(3) AI 監査と不正の多様性：監査人の責任に係る経済実験

田口 聡志(同志社大学)

(4) クラウドソーシングを用いたオンライン実験の会計研究への適用可能性：

会計監査コンテキストを加えた公共財ゲームによる検証

廣瀬 喜貴(大阪市立大学)

後藤 晶(明治大学)

第7会場(D号館2階 D209)

司会者：浦崎 直浩(近畿大学)

(2) 中大連携を目的とした原価計算・管理会計教育の実践

君島 美葵子(横浜国立大学)

司会者：石津 寿恵(明治大学)

(3) 医療機関における設備投資の意思決定の実態

―質問票調査に基づく分析―

古井 健太郎(松山大学)

(4) 医療機関の経営企画部門に関する実態報告

―DPC/PDPS 病院へのアンケート調査から

阪口 博政(金沢大学)

渡邊 亮(神奈川県立保健福祉大学)

荒井 耕(一橋大学)

第8会場 (D 号館2階 D210)

司会者：篠原 淳 (園田学園女子大学)

- (1) 議会・住民の意思決定に資する業績情報
ーポスト NPM および自治体統合報告の導入を見据えてー

坂元 英毅 (日本文理大学)

- (2) 自治体における統合報告導入効果に関する考察

酒井 大策 (常葉大学)

司会者：椎葉 淳 (大阪大学)

- (3) 上場企業と非上場企業の利益の質の比較分析

金 鉉玉 (東京経済大学)

安田 行宏 (一橋大学)

- (4) IAS 38により資産計上される開発費に関する
実証研究

奥原 貴士 (四日市大学)

第9会場 (D 号館2階 D211)

司会者：梶原 武久 (神戸大学)

- (1) 企業の健康保持・増進と業績向上の方法
ーバランス・スコアカードに注目してー

金藤 正直 (法政大学)

岩田 一哲 (信州大学)

- (2) 損益分岐点分析や CCC (Cash Conversion Cycle) は、
なぜ下請いじめに誤用されるのか

岸田 賢次 (名古屋学院大学名誉教授)

司会者：小菅 正伸 (関西学院大学)

- (3) ライフサイクル・コストिंगの展開
ー運用コストおよび支援コストを中心としてー

岡野 憲治 (松山大学名誉教授)

- (4) リコールコストの現状と課題

長谷川 泰隆 (麗澤大学)

院生セッション第1会場 (D 号館2階 D214)

司会者：榎本 正博(神戸大学)

(1) 公正開示規制が経営者による業績予想行動に与える影響

堀江 優希(一橋大学大学院)

(2) ゴーイング・コンサーン情報の開示が企業の資産売却に及ぼす影響

日下 勇歩(一橋大学大学院)

司会者：岡本 紀明(立教大学)

(3) 銀行業における貸出金と預金の時価情報と株価の関連性

岡田 慎太郎(早稲田大学大学院)

(4) 議決権行使助言基準と ROE マネジメント

甚内 俊人(一橋大学大学院)

石田 惣平(埼玉大学)

河内山 拓磨(一橋大学)

院生セッション第2会場 (D 号館2階 D215)

司会者：古市 承治(元 福岡国税局)

(3) 「明治14年の政変」以降の公会計における複式簿記の経過

久井 孝則(桃山学院大学大学院)

(4) 行政組織における PDCA サイクルの適用

—Plan へのフィードバック・コントロールと

フィードフォワード・コントロールに注目して—

生方 裕一(筑波大学大学院)

院生セッション第3会場 (D 号館2階 D216)

司会者：奥田 真也(名古屋市立大学)

(1) 利益調整行動の動学的分析：構造推定を用いた実証分析

伊瀬 堂人(大阪大学大学院)

(2) 会計不正が投資家の意思決定にあたえる影響

—不正着手から発覚までの期間を対象にして—

前川 南加子(横浜国立大学大学院)

司会者：上野 清貴(中央大学)

(3) 退職給付会計におけるストックとフローの観点

高井 駿(学習院大学大学院)

(4) 中国の現代会計制度における会計思考の特徴

—「管理活動論」を中心に—

畢 天維(早稲田大学大学院)

第1会場 (D号館1階 D101)

「財務会計研究の将来を考える」

座長：大石 桂一 (九州大学)

討論者：池田 幸典 (愛知大学)

清水 泰洋 (神戸大学)

中野 誠 (一橋大学)

鈴木 智英 (早稲田大学)

第2会場 (D号館1階 D102)

「監査研究の継承と変化」

座長：町田 祥弘 (青山学院大学)

討論者：千代田 邦夫 (立命館アジア太平洋大学 (APU) 客員教授)

鳥羽 至英 (国際教養大学)

山浦 久司 (明治大学名誉教授)

内藤 文雄 (甲南大学)

第3会場 (D号館2階 D201)

「管理会計研究の多様性」

座長：伊藤 嘉博 (早稲田大学)

討論者：國部 克彦 (神戸大学)

横田 絵里 (慶應義塾大学)

挽 文子 (一橋大学)

清水 孝 (早稲田大学)

第4会場 (D号館2階 D202)

「パブリックセクターの会計学研究の将来を考える ーガバナンスとアカウンタビリティ」

座長：松尾 貴巳 (神戸大学)

討論者：山本 清 (鎌倉女子大学)

小林 麻理

吉見 宏 (北海道大学)

目時 壮浩 (武蔵大学)

「のれんの会計処理を巡る国際的な動向」

小賀坂 敦(企業会計基準委員会委員長)

川西 安喜(企業会計基準委員会副委員長)

特別委員会報告

第1日目 9月7日(土)

特別委員会報告1 14:50～15:30

特別委員会報告2 15:40～16:20

(報告時間 各30分 質疑応答 各10分)

会 場

神戸国際会議場

1階 メインホール

日本会計研究学会 2018-2020 年度特別委員会中間報告

税制が企業会計その他の企業行動に及ぼす影響に関する研究

委員

浅野敬志（首都大学東京）	岩崎瑛美（松山大学）	大沼 宏（東京理科大学）
奥田真也（名古屋市立大学）	加藤恵吉（弘前大学）	河瀬 豊（神戸学院大学）
米谷健司（立教大学）	阪 智香（関西学院大学）	櫻田 譲（北海道大学）
鈴木一水（神戸大学）委員長	高橋隆幸（横浜市立大学）	田村威文（中央大学）
成川旦人（横浜市立大学）	松浦総一（立命館大学）	村上裕太郎（慶應義塾大学）
山田哲弘（中央大学）		

1 研究の背景と目的

日本経済の再生にとって、諸外国と比較して負担の大きい税コストが企業価値向上に与える障害になっているため、コーポレートガバナンスの観点から、有効な税務計画の策定と実施が重要な経営課題となってきた。しかし、税コストの削減は、財務報告コスト、エージェンシーコスト、資本コスト、政治コストなどの増加を招くおそれがある。特に近年は、BEPS（Base Erosion and Profit Shifting）問題が、OECD や G20 で取り上げられ、各国においてこの問題への取組みが強化されつつある。こうした事業環境や制度環境のもとで、日本企業が現在および将来にわたる税引後キャッシュフローの最大化を目的とする税務計画をどのように策定し実施し、それに対して投資者や税務当局等がどのように反応しているかという税務会計実務の実態を解明し、企業価値と税制との関係や税務法規の有効性と限界などを検討することは、日本企業の効率的な組織化と活動の促進および規制当局の取組みに関する議論に資するものと期待できる。

2 研究上の特徴、分析枠組みおよび問題

本研究においては、組織理論における説明変数に税金を導入することによって、理論の税制が企業や税務当局の行動さらには資本市場に及ぼす影響を予測する能力および税制の有効性を評価する能力を高めることにある。

企業価値の向上を図ろうとする企業は、経営戦略に効率的な税務計画を組み込む。税務計画が有効であるためには、企業の組織と活動を広範囲にわたって多面的・複眼的に検討しなければならない。ここでの広範囲にわたる多面的・複眼的検討の対象には、①すべての利害関係者への影響、②すべての税の影響、および③すべてのコストの影響が含まれる。

税制が企業行動に与える影響を解明するためには、所与の事業環境および制度環境のもとで、どのような税務計画が効率的であるかを明らかにしなければならない。効率的な税務計画のためには、税コストだけではなく、規制等の制約、情報の非対称性によって生じるエージェンシーコストその他の取引コストなどのさまざまな摩擦を考慮しなければならない。

ない。その結果、効率的組織においては、顕在税（explicit taxes）の軽減は図られても最小になるとは限らない。この現象は、研究上の識別問題を生じさせるおそれがある。

3 進行中の研究例

- (1) 日本企業の租税負担削減を目的とした利益移転：分析手法のサーベイと日本企業の実態調査 山田哲弘（中央大学）

経済の国際化に伴い、日本企業の活動範囲も国際化している。一方で、税制は各国固有の制度であり、各国の法人税率は当然異なる。このため多国籍企業は、税率の高い地域から低い地域へ利益を移転させることで、企業グループ全体の租税負担を削減しようとするインセンティブに直面する。このような利益移転等による税の不公平な分配は、税源浸食と利益移転（Base Erosion and Profit Shifting：BEPS）と呼ばれている。そこで本研究では、日本企業による租税負担削減を目的とした利益移転の実態について明らかにする。先行研究のサーベイから、利益移転の分析手法は①税率の差によって真の利益から報告利益が乖離するか否かを観察する手法、②外生的な売上高の変化の波及効果を観察する手法、③移転された利益を直接推計する手法の3つに大別されることが明らかとなる。そこで本研究も、日本企業の利益移転に関する実態を調査するため Huizinga and Laeven（2008）の推定モデルを用いて、実証的に分析した。分析の結果、海外輸出・売上高がある企業に限り、親会社から子会社への利益移転が観察された。

- (2) ブランド資本による租税負担削減行動の抑制に関する実証研究 松浦総一（立命館大学）

本研究は、企業が蓄積した評判(reputation)、とりわけ消費者からの評判の蓄積で作り上げた消費者ベースのブランド資本(consumer based brand equity; CBBE)が租税負担削減行動を抑制するのかどうかを検証することを目的としている。租税負担削減行動は企業の税引後キャッシュフローを増加させる会計行動であり、企業価値を高める可能性がある。しかし租税負担削減行動が企業価値を増加させるかどうかは、税コストと二律背反的關係にある様々なコストに依存する。

Scholes and Wolfson (1992)は、効果的な税務計画のためには、すべてのコスト、具体的にはエージェンシーコストと財務報告コストを考慮して税コストを削減する必要がある、と述べている。しかし近年では、追加的なコストとして評判の毀損を意味する評判コスト(reputation cost)に注目した研究が蓄積されている。

本研究では、Austin and Wilson (2017)に従い、租税負担削減行動を最も否定的にみる利害関係者として消費者を想定し、消費者から見たブランド資本(CBBE)の蓄積が、経営者による租税負担削減行動を抑制する役割に注目する。具体的には、消費者から見たブランド資本の代理変数であるCBバリュエーターを説明変数、租税負担削減行動の代理変数である実効税率を独立変数とした実証研究を行う。その結果、高い消費者から見たブランド資本を保有する企業ほど、租税負担削減行動をとらない、という予測と整合的な証拠を発見している。

会場案内図

アクセス案内

■山陽新幹線「新神戸駅」から

- 三宮へ

神戸市営地下鉄「新神戸駅」から2分

➡「三宮駅」下車

(以下 JR「三ノ宮駅」、阪急「神戸三宮駅」、阪神「神戸三宮駅」からをご覧ください。)

■JR「三ノ宮駅」、阪急「神戸三宮駅」、阪神「神戸三宮駅」から

- 神戸国際会議場、神戸ポートピアホテルへ

ポートライナー「三宮駅」から10分

➡「市民広場駅」下車 徒歩1～2分

- 神戸学院大学ポートアイランドキャンパスへ

ポートライナー「三宮駅」から9分

➡「みなとじま駅」下車 徒歩約6分

神姫バス「三宮(そごう前)」から12分

➡「ポーアイキャンパス」下車

■JR「神戸駅」から

- 神戸学院大学ポートアイランドキャンパスへ

神姫バス「神戸駅南口」から16～20分

➡「ポーアイキャンパス」下車

■神戸空港から

- 神戸国際会議場、神戸ポートピアホテルへ

ポートライナー「神戸空港駅」から8分

➡「市民広場駅」下車 徒歩1～2分

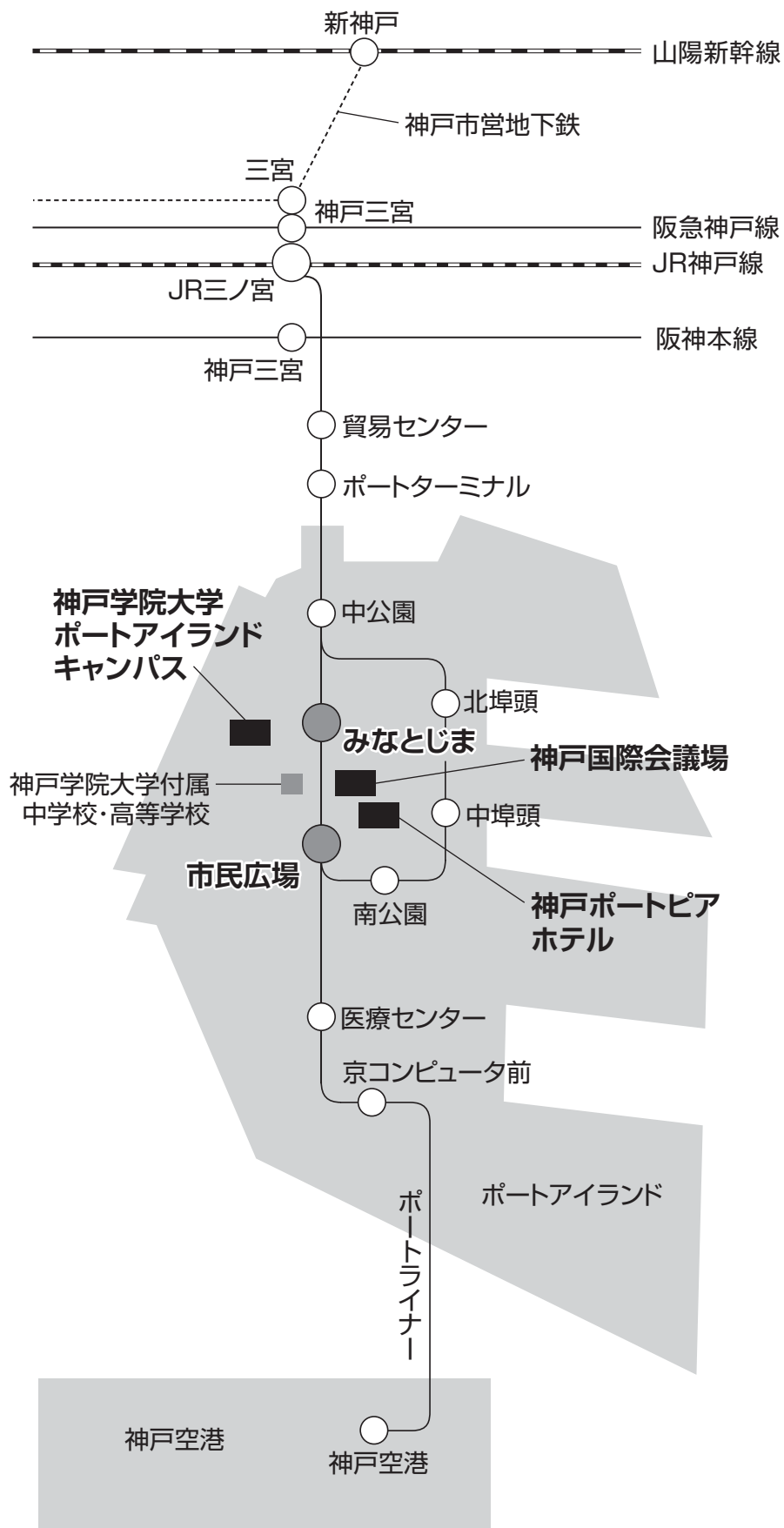
- 神戸学院大学ポートアイランドキャンパスへ

ポートライナー「神戸空港駅」から9分

➡「みなとじま駅」下車 徒歩約6分

アクセスマップ

広域地図



神戸国際会議場・神戸ポートピアホテル

周辺地図



周辺道路は駐車禁止となっております。
神戸国際会議場、神戸ポートピアホテルへお越しの際は、
必ず周辺駐車場をご利用いただきますよう
お願いいたします。

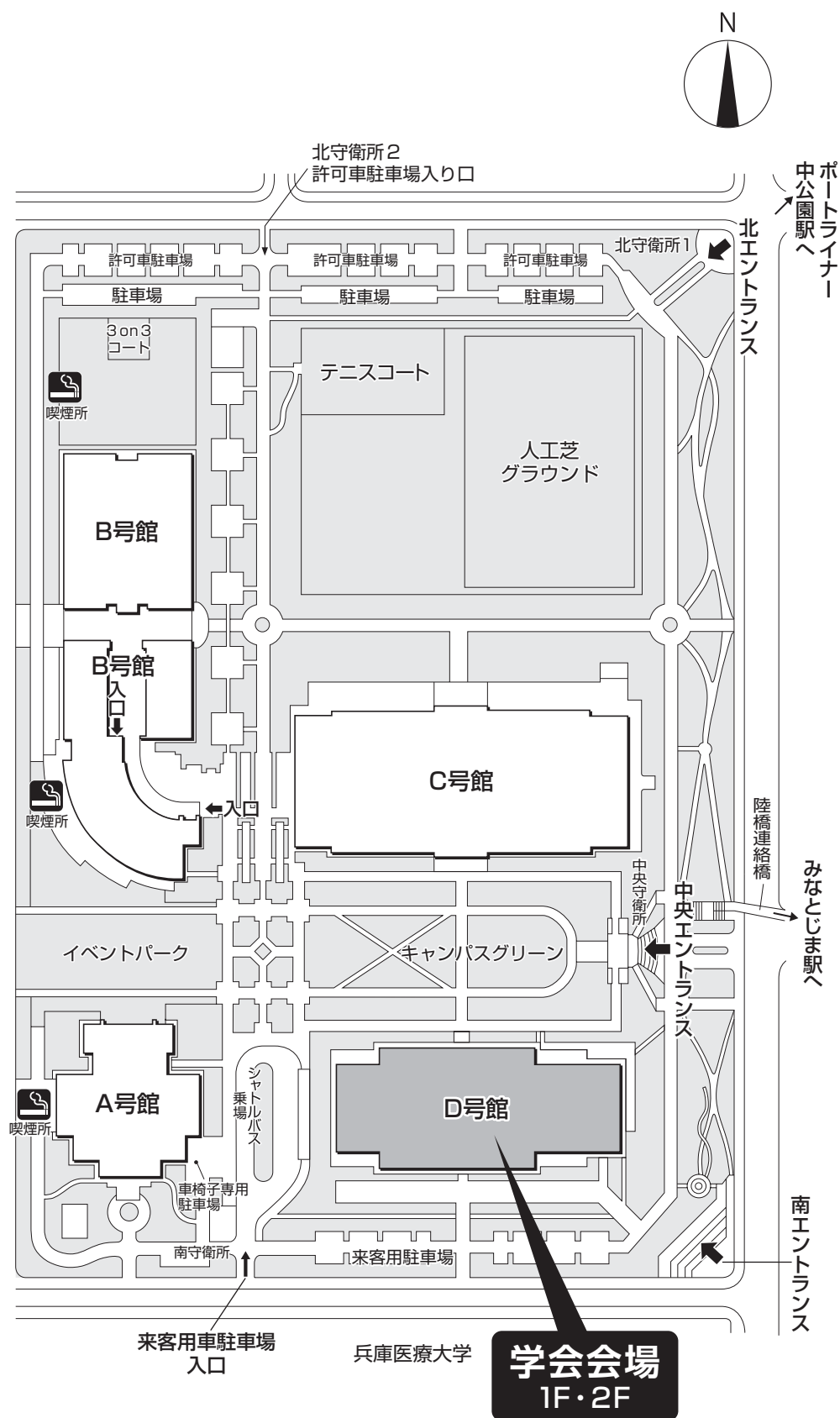
神戸学院大学ポートアイランドキャンパス 周辺地図



神戸学院大学ポートアイランドキャンパス会場への
お車でのご来場はご遠慮ください。
なお特段の事情がおありの場合は、
大会準備委員会までお問い合わせください。

神戸学院大学ポートアイランドキャンパス

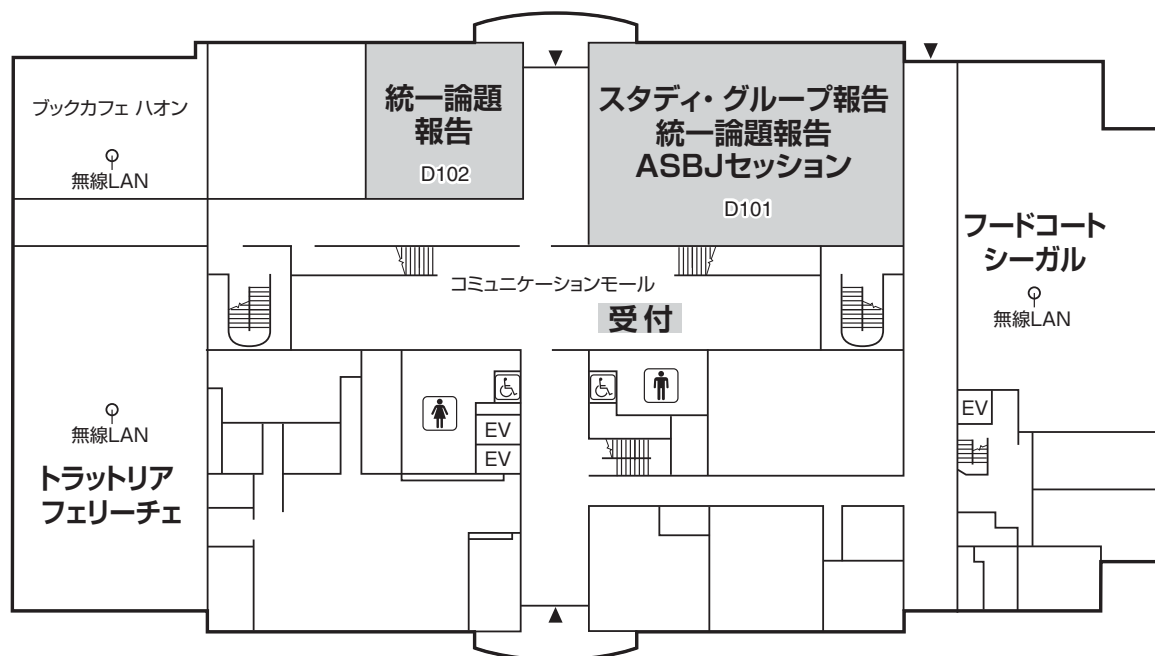
キャンパスマップ



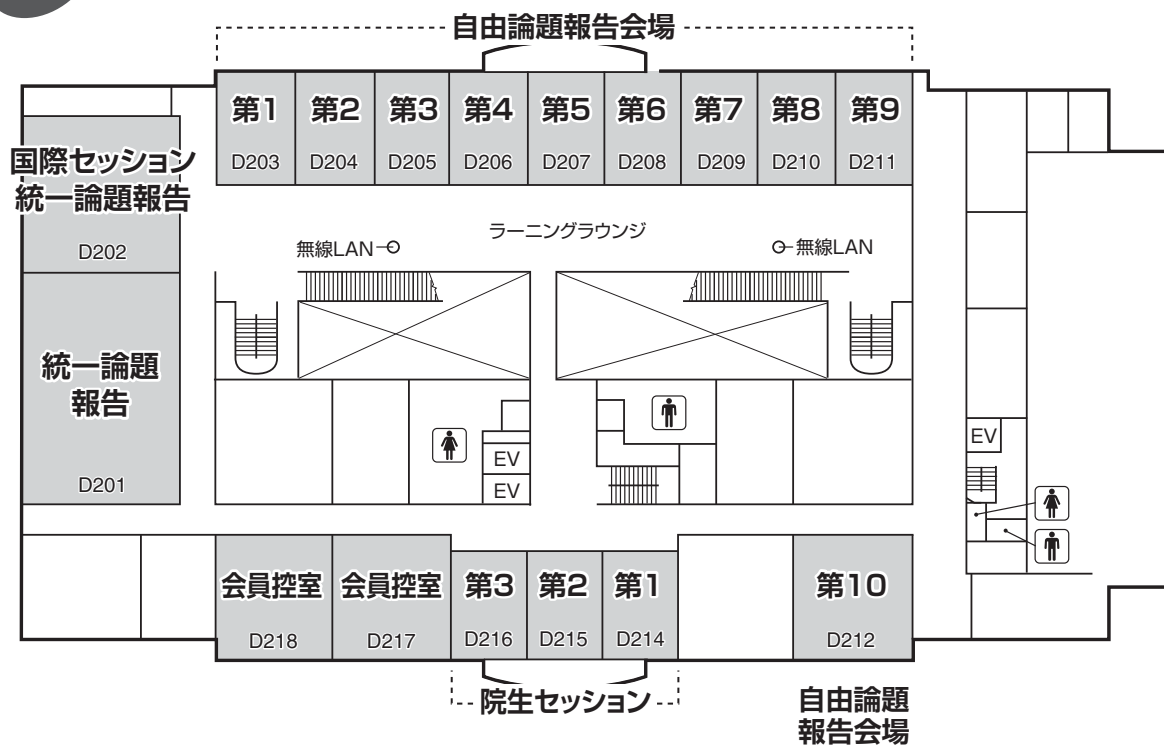
神戸学院大学ポートアイランドキャンパス

D号館

1F



2F



日本会計研究学会第78回大会準備委員会

委員長	安井 一浩		
委員	宮本 幸平	吉田 康久	
	島永 和幸	河瀬 豊	



**日本会計研究学会
第78回大会準備委員会**

〒650-8586 神戸市中央区港島1-1-3
神戸学院大学安井一浩研究室

E-mail : jaa78@ba.kobegakuin.ac.jp
<http://www.jaa-net.jp/jaa2019/>